

# 埼玉県自立支援協議会 医療的ケア児者・重症心身障害児者支援部会

---

令和 7 年度第 2 回終了時点  
報告用資料

# 医療的ケア児支援部会について

●令和5年3月 県自立支援協議会の子部会として設置。

【部会員】現在18名（R7.4改選、2年ごとに更新）

	分野	氏名	所 属				
	1	医療	小堀 勝充		11	障害福祉	茂木 健司
			一般社団法人埼玉県医師会 (医療生協さいたま生活協同組合熊谷生協病院名誉院長)				埼玉県医療的ケア児等支援センター 地域センターたいよう 医療的ケア児等コーディネーター
新設	2	医療	崎山 快夫		12	保育	三須 亜由美
			一般社団法人埼玉県医師会 (自治医科大学附属さいたま医療センター 脳神経内科(兼)総合健診部)				埼玉県保育協議会 評議員 (社会福祉法人なないろ会 理事長)
	3	医療	是松 聖悟		13	教育	小池 八重子
			埼玉医科大学総合医療センター 小児科 教授				埼玉県特別支援学校長会 (埼玉県立越谷特別支援学校長)
	4	医療	佐藤 啓子		14	当事者団体	大久保 奈津子
			公益社団法人埼玉県看護協会 専務理事				埼玉県医療的ケア児・者等家族会ネットワーク (特定非営利活動法人mamacare会員)
	5	医療	白石 恵子		15	当事者団体	宮城 遼大
			一般社団法人埼玉県訪問看護ステーション協会 会長	新設			埼玉県医療的ケア児・者等家族会ネットワーク
	6	医療	金子 綾奈		16	市町村	田邊 玲子
			地方独立行政法人埼玉県立病院機構埼玉県立小児医療センター（地域連携・相談支援センター）ソーシャルワーカー				埼玉県市町村保健師協議会 (狭山市保健センター 主幹)
	7	医療・障害福祉	許斐 博史		17	市町村	岩澤 隆行
			社会福祉法人東埼玉 中川の郷療育センター施設長				さいたま市福祉局障害福祉部障害福祉課 係長
	8	障害福祉	神本 和代		18	保健	佐藤 夕子
			社会福祉法人ともに福祉会 児童発達支援センターまる管理者				埼玉県草加保健所 副所長
	9	障害福祉	小金淵 美保子				
			特定非営利活動法人埼玉県相談支援専門員協会 副代表				
	10	障害福祉	若尾 勝己				
			埼玉県障害者就業・生活支援センター連絡協議会 (障害者就業・生活支援センターCSA 所長)				

# 医療的ケア児支援部会について

●令和7年度は2回開催。（いずれもオンライン開催）

## ①令和7年6月3日（火）17:00～19:00

- ・部会の名称変更
- ・短期入所資源の不足に関する課題
- ・移行期支援（医療の成人期移行、活動の場の成人期移行）

## ②令和7年11月19日（水）17:00～19:00

- ・短期入所資源の不足に関する課題
- ・移行期支援（医療の成人期移行、活動の場の成人期移行）
- ・その他の課題について  
埼玉県医療的ケア児等支援センター事業の中間報告  
各部会員がそれぞれの分野で把握している課題や取組

# 医療的ケア児支援部会の名称変更

## ● 「医療的ケア児支援部会」の名称変更

### 部会の対象者

医ケア児だけでなく、（医ケアのない）重症心身障害児、それぞれの成人以降の方も含める（県医療的ケア児等支援センターの対象者と同じ）とする。

### 現在の名称「医療的ケア児支援部会」

医ケア児だけが対象のような印象を与えるため、名称変更をすべきである。



**名称変更について、親会である埼玉県自立支援協議会からの了承が得られた。**

変更例：医療的ケア児等支援部会

医療的ケア児者等支援部会

医療的ケア児者・重症心身障害児者支援部会 など

**埼玉県自立支援協議会からの意見：**「等」で省略しない表現がよいのではない。  
例「医療的ケア児者・重症心身障害児者支援部会」

# 医療的ケア児支援部会の名称変更

- 「医療的ケア児支援部会」の名称変更

「医療的ケア児者・重症心身障害児者支援部会」に決定

# 1. 短期入所資源の不足等に関する課題


## 主な意見に対する対応（案）

### ①施設数、利用日数を増やす取組、職員の研修

- ・各地域にばらつきなく短期入所施設があるとよい。
- ・職員の質（看護師のスキル）の向上も目指すべき。

- ・実績のある施設に対し、運営上の課題やメリットなどについてヒアリング
- ・受入れ実績のない施設に対し、（実績がないことについての）考えられる要因や課題をヒアリング

→ 新規開設を増やすための取組  
既存施設でのこ入れの（利用実績を伸ばす）ための取組  
職員研修の取組 } 具体化していく

- 
- ・管理者が必要を感じるかどうか（経営面と社会的意義）
  - ・新規開設する際の手続きの煩雑さ
  - ・障害サービス制度と医療制度、介護保険制度の違いが分かりにくい
  - ・受入イメージがわからない
  - ・重症心身障害児者をケアするノウハウがない

● 管理者に対するセミナー、興味を示した施設への個別支援（手続き支援、ケア研修、先行施設への視察等）で丁寧にアプローチしていくとよい。

# 1. 短期入所資源の不足等に関する課題

## 主な意見に対する対応（案）

### ②他のサービスで代替している例から検討

・短期入所の代替手段となるサービスを充実させることも必要では。

- ・サービスの利用計画を立案する相談員（相談支援専門員）が、（特に緊急時に）どの資源を利用できるか考え、当事者・保護者と備えておく。
- ・「児」は利用計画を保護者が立てている率が高いが、緊急時に保護者が様々な機関を打診できるとは限らない。「こういう場合にはどうするか」を基幹相談支援センターや医療的ケア児等コーディネーター等と一緒に考えられるような体制が必要。

→ 医療的ケア児等コーディネーターや基幹相談支援センター職員の研修内容に入れ込んでいく。



- 医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修（令和7年12月予定）  
地域の資源やその活用方法の共有
- 地域づくり研修（令和8年3月予定）  
基幹相談支援センター、地域生活支援拠点、市町村職員等が参加）に内容  
を入れ込む

# 1. 短期入所資源の不足等に関する課題

## 主な意見に対する対応（案）

### ③医療型障害児入所施設職員の会議体で検討

- ・ 共通のアセスメントツールがあれば受入準備がしやすくなるのでは。
- ・ 受け入れに関する課題や各施設の受け入れ基準について、中心施設で情報交換できるとよいのではないか。

→ 医療型障害児入所施設（7か所）及び指定発達支援医療機関の事務方職員の会議体で、各施設における短期入所に関する情報共有やアセスメントシートの共通化などについて議論する。

令和7年7月10日 開催

- ・ 最初の相談から受入まで、1～2か月のところもあれば、カルガモの家やカリヨンの杜は1年待ち。一方で、体調不良等により急なキャンセルも多い。
- ・ 8か所のうち7か所は、施設独自のアセスメントシートを利用。
- ・ 施設によって受入可能な状態像は異なる。アセスメントシートを共通化しても、結局は外来で診たり、実際に面談したりしないとわからないことが多い。

状態像が様々であるため、共通のアセスメントツールがあったとしても、結局は来ていただき、直接アセスメントすることが必要。緊急対応は難しい。

● 当事者の方が利用の際に使用する様式等に関してはいかがか？

いざというときのために、日ごろから複数の施設を利用しておく方もいると思われるが、共通して使える様式があれば使いまわして便利など、御意見があればいただきたい。



# 1. 短期入所資源の不足等に関する課題

## 主な意見に対する対応（案）

④地域でのコーディネーターのつながりづくりや情報交換を支援

・医療的ケア児等コーディネーターの連携強化で短期入所を含めた地域資源情報を共有。

→ 医療的ケア児等コーディネーターのフォローアップ研修等（全体・圏域別）でコーディネーター同士の横のつながりを強化する。



● 医療的ケア児等コーディネーターのフォローアップ研修

今年度は2回実施（昨年度は1回）

令和7年12月22日、令和8年1月13日

## 2 (1)移行期支援（かかりつけ医の移行）における課題

### 主な意見に対する対応（案）

- ・ 移行期医療支援あり方検討会※との交流ができるとよいのではないか。

※移行期医療支援センター（小児医療センター内）が設置している有識者会議。



- 12月9日（火）17時～19時 オンライン 開催予定  
医療的ケア児者・重症心身障害児者支援部会 6～7名  
移行期医療支援あり方検討会（元委員、事務局含む）7～8名

まずは情報共有と、今後継続して実施するか、その場合どのような場にしていくかについて、議論していきたい。

## 2 (2)移行期支援（活動の場の移行）における課題

### 主な意見に対する対応（案）

②サービス報酬単価の引き上げについて国に要望

・医ケア・重心を受け入れている生活介護事業所の事業継続のため経済的な支援も必要。

### 課題① 生活介護事業所等の看護師配置について

#### 生活介護事業所等での受入が困難な要因

- 生活介護事業所等で18歳以上の医療的ケア者を受け入れるためには看護師の配置が不可欠
- しかし、現行の報酬では、事業所が看護師を雇用することは困難

#### 《看護師配置に必要な人件費》

看護師を一日配置した場合に必要と見込まれる人件費



時給1,850円(\*) × 8時間 = **14,800円**

\* 令和5年賃金構造基本統計調査による

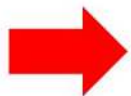
#### 《現行の報酬：常勤看護師等配置加算》

例：定員20人の生活介護事業所で常勤看護師を1名配置した場合



1日あたり280円 × 20人 = **5,600円**

→ 1日あたり **9,200円不足**



生活介護等の事業所において医療的ケアを行う人材を十分に配置できるよう、障害福祉サービスの報酬のあり方を見直すべき

## 2 (2)移行期支援（活動の場の移行）における課題

### 主な意見に対する対応（案）

#### ②サービス報酬単価の引き上げについて国に要望

・医ケア・重心を受け入れている生活介護事業所の事業継続のため経済的な支援も必要。

### 課題② 送迎に関する支援について

#### 送迎の困難さ

- ・ 医療的ケア者の外出には、携行品の準備や移動中のケアが必要
- ・ 看護師など医療的ケアを行える者の同行を要するため、大きな困難を伴う

- ・ 携帯品の準備 吸引器、医薬品、栄養剤、おむつ、人工呼吸器、バッテリー等を準備し、車いすに積載
- ・ 移動中のケア たんの吸引、服薬、注入、排せつ介助、褥瘡予防のため適時除圧・体位転換など

#### 送迎の実施が困難な要因

##### 《送迎に必要な人件費》

例：1回の送迎に見込まれる人件費



運転手1,180円(\*) + 看護師1,850円(\*) = **3,030 円**

\* 令和5年賃金構造基本統計調査による

##### 《現行の報酬：送迎加算》

例：生活介護事業所が一定の基準（重症者割合含む）を満たす送迎を実施した場合



1回 **490 円**

→ 1回あたり **2,540 円不足**



生活介護等の事業所が医療的ケア者の送迎を行えるよう、  
障害福祉サービスにおける送迎に関する報酬を見直すべき



## 2 (2)移行期支援（活動の場の移行）における課題

### 主な意見に対する対応（案）

#### ②サービス報酬単価の引き上げについて国に要望

・医ケア・重心を受け入れている生活介護事業所の事業継続のため経済的な支援も必要。



令和7年7月7日 厚生労働省にて 仁木厚生労働副大臣に手交

## 2 (2)移行期支援（活動の場の移行）における課題

### 主な意見に対する対応（案）

#### ③人材育成、スキルアップ

・支援のノウハウについて、職員への研修を行えるとよい

- ・重症心身障害者とのコミュニケーションスキル → 研修、取組事例紹介
- ・活動支援のスキル

#### 重症心身障害児者の支援者向け研修 （一般社団法人ケアの方舟との合同実施）

11月24日（月・祝）

「重症心身障害児・者の“自分らしさ”を見つける支援」

埼玉県医療的ケア児等支援センター  
一般社団法人ケアの方舟共同開催

文部科学省委託 令和7年度  
学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業

### 重症心身障害児・者の 「自分らしさ」を見つける支援 ～「学びマップ」を使ってみよう～

「『その人らしさ』と一緒に描いていますか？」  
重症心身障害児・者の「自分らしい生き方」を支援するには、  
その人の喜びや興味、やりたいことなどを知ることが大切です。  
でも、ことは伝えられないからなかなか気づけない…そんなことはありませんか？  
この研修では「Be Prau 学びマップ」を使って  
「その人らしさ」を発見する関わり方を学びます。

日程：11月24日（祝・月）  
時間：13:30～16:30  
場所：彩の国すこやかプラザ セミナーホール  
（さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65）  
JR京浜東北線 与野駅から徒歩10分程度  
・駐車場には限りがございますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください  
持物：筆記用具

対象者：埼玉県内で重症心身障害児・者を支援に関わっている方 ※職種不問  
定員：50名（先着順）

申込期限：令和7年10月1日（水）～令和7年11月10日（月）  
申込方法：電子申請・届出サービスで「登録せずに申し込む」からお申し込みください。  
※お申込から1日たっても申込完了メールが届かない場合は、受付が完了していない可能性があります。  
※手数料ですが、メールでご連絡ください。  
連絡先メールアドレス：a3300-21@pref.saitama.lg.jp

#### 【プログラム】

13:30～	オリエンテーション
13:40～	講義「『学びマップ』で拓く“その人らしい” 地域共生～訪問レクレッज『Be Prau』の社会実装」
14:10～	休憩
14:20～	ワークショップ 「『Be Prau 学びマップ』を使ってみよう」
15:50～	休憩
16:00～	振り返り
16:25～	アンケート記入

講師  
一般社団法人ケアの方舟 代表理事  
訪問レクレッज『Be Prau』学長  
西村理佳

WSファシリテーター  
訪問レクレッジ プロセスコーディネーター  
吉富聡子

【問い合わせ】埼玉県医療的ケア児等支援センター 担当：神田 宇都木  
メール：a3300-21@pref.saitama.lg.jp  
電話：048-857-1001

QRコード